

平成25年度宮城県生活習慣病検診管理指導協議会循環器疾患等部会

日時：平成26年1月28日（火）

午後3時～午後4時30分

場所：県庁 7階 保健福祉部会議室

1 開会・委員の紹介

司 会 ただ今から、宮城県生活習慣病検診管理指導協議会循環器疾患等部会を開催致します。

この会議は、情報公開条例第19条の規定に基づき公開とさせていただいております。

それでは、本日の会議は、お手元に配付致しました次第に従いまして進めさせていただきます。

本日は、4名の委員全員に出席していただいております。

委員の紹介につきましては、委員の皆さまに昨年度から引き続き就任いただいております。本日の名簿によりまして、御紹介は省略させていただきます。

ここで、本日の資料の確認をさせていただきます。

（資料確認）

では、ここからの進行につきましては、以前から部会長をお願いしておりました仁田部会長をお願いしたいと思います。仁田部会長、よろしくお願い申し上げます。

2 あいさつ

議 長 お忙しいところ御出席いただきありがとうございました。この部会は、宮城県の生活習慣病の問題点を抽出して、そしてそれに対する対策をこちらから提案する、そして県の方々にしっかりとフォローしていただくというのがこの会議の性格です。残念ながら宮城県は問題が山積しています。県の方々にも認識していただいて、できるところから対策を講じていきたいと思っております。みなさまからの御意見をよろしくお願い致します。

3 報告

(1) 死亡数等の推移

議 長 それでは、早速議事に入りたいと思っております。

まず、報告事項ですが、(1)生活習慣病における死亡数及び死亡率の推移について事務局から説明願います。

(事務局 説明)

議長 ただいまの説明につきまして、何か御意見・御質問等はありませんでしょうか。
心疾患、脳血管疾患の死亡率は、男女ともに平成23年から24年にかけて減っている、ということでした。そして、疾患別では、全国に比べて急性心筋梗塞が少なく、不整脈が多いという説明がありました。下川先生いかがですか。

下川委員 全国で心疾患死亡が増えているのに対して、宮城県で心疾患が減っているのは非常に興味深いです。

議長 宮城県の心疾患対策の成果が出てきたと言えるのではないのでしょうか。

下川委員 これはあくまで死亡数だけですから、宮城県心筋梗塞対策協議会では、発生数を登録していますので、こちらの方でも検討していきたいと思います。

不整脈については、そう多くないと思います。

桜井委員 全国平均と比べると脳梗塞よりも脳内出血が多いということでしたが、これは血圧のコントロールが甘いということでしょうか。

議長 今の不整脈と脳内出血の両方に合うキーワードは肥満ですね。(宮城県は)肥満の状況もよくないです。伊藤先生いかがですか。

伊藤委員 脳出血が多いのは気になります。血圧の管理はそう悪くはないはずですが。

事務局 全国の割合と比較すると、宮城県は、脳梗塞より脳出血で亡くなる割合が高いということを示しています。

下川委員 東北六県はこういう傾向があるのではないのでしょうか。以前よりはだいぶ改善されていると思います。

伊藤委員 死亡率よりも発症数が大事だとは思いますが。

(2) ①全保険者別特定健診について

議長 次に進みます。(2)①全保険者別特定健診・特定保健指導の実施状況について、事務局から説明願います。

(事務局 説明)

議長 ただいまの説明につきまして、何か御意見・御質問等はありませんでしょうか。
メタボ、高血圧、高脂質、これらは循環器疾患と関連性が深いです。

アメリカ南部では65%以上が肥満ですが、都市部のニューヨークやボストンは低い状況があります。都市部は、交通機関が発達しているので、地下鉄があり歩く習慣があります。アメリカだからといって全部一緒にしないでくれとニューヨークの人は言いますが。

アメリカの場合は、最近コカコーラが問題になっていて、発祥地には肥満が多いと。今はタバコがバッシングされていますが、今後はコカコーラではないかと言われています。

沖縄に肥満が多いのは欧米の食生活の影響があり、肥満数が上がってきていますね。

宮城県内の各市町村と仙台市都市部とを比べるとメタボの状況はどうですか？

事務局 仙南地区と黒川郡は肥満が多いです。一方、塩釜地区や仙台市周辺は少ない状況にあります。

伊藤委員 川崎町にメタボが多いのではないですか。老人が多く、外に出歩かない人が多い印象があります。

議長 (メタボは) どうしても老人や一人暮らしの人が多いのではないのでしょうか。仮設住宅も同じで、いかに彼らを屋外にひっぱりだすか、が重要だと思います。

桜井委員 ウォーキングをしている人は田舎より都会の人が多く感じます。郡部では車を2台3台保有しているし、歩くことが少ないのではないのでしょうか。

議長 昔は田舎に肥満体が少なかったですよ。なぜなら、田畑で働いていたから。外の仕事を見つけることやレクリエーションをするなどがあるとよいですね。

その時大事なのはパートナーだと思います。長野県で非常にうまくいっているのは、住民をいかにひっぱりだすかということだと聞いています。ウォーキング、ランニングなどをする事で、体型も変わってくるし検査データがよくなると話していました。どうしてそうなったかと聞くと一緒に走ってくれる人や歩いてくれる人がいるということでした。そういう仕組みが大事だと思います。パートナーを上手につけることが必要ですね。宮城県としても、教育した人がパートナーになるなど、これが新しいビジネスになるのではないのでしょうか。お金が回るしくみにすれば持続可能で、収入につながるし、引っ張りだされるほうも健康になるし両方にメリットがあるので、よいと思います。県でも重症化予防だけでなく、予防の方に費用の配分を考えても良いのではないですか。いずれにしても住民を引っ張りださないと

いけないですね。市町村でも少しずつ考えはじめていますので、県でもその後押しをする施策を考えてはどうですか。

都市部に関しては、職場単位で施策を考えてられれば良いと思います。達成した人には、表彰などで褒めることが大事です。宮城県発の雇用対策も関係した健康づくりの対策などを市町村と話合う機会があるとよいのではないのでしょうか。このままでは変わらないと思います。

桜井委員 特定健診・特定保健指導が始まったら、実施率が低いですね。指導する方に意欲がないのではなく、特定保健指導の該当者のやる気のなさが問題だと思います。指摘はされるものの、真剣味が足りないのではないですか。

議長 セケ宿町の方はよく働いているので、肥満は少ないのではないですか。

事務局 そうでもないです。セケ宿町は、年齢調整してみたら、メタボの割合が高く出ましたので、特に若い年代でメタボになっている人が多いのかもしれませんが。

議長 若い年代の人は、野良で働いている人が少ないからなのではないのでしょうか。メタボに関しては、何らかの対策を考えなければいけませんね。

桜井委員 メタボもそうですが、禁煙だって同じですよ。本人の自覚が大切です。

議長 本人の自覚を促すために、このような情報を周知する方法を考える必要がありますね。

桜井委員 市町村が競争する仕組みを作り、検証できるといいと思います。市町村の機運をあおる必要がありますね。

議長 マスコミを上手に利用したり、協力してもらい、良い取組状況をテレビに出してもらったらどうでしょうか。県内のマスコミに、1週間に1回くらい宮城県に貸してくれるところがあるといいですね。そのような話を知事にしたことはありますか。

事務局 メタボがワーストであるということで、マスコミに取材を受けたことがあります。

議長 このままでは先行きが心配です。みんなで知恵を出し合って、マスコミによる露出などの取組をこの部会で提案してみませんか。

(2) ②特定健診（市町村国保の実施状況）

議長 次に、(2)②平成23年度宮城県内市町村国保における特定健診・特定保健指導の実施状況について事務局から説明願います。

（事務局 国保医療課 説明）

- 議長 ただいまの説明につきまして、何か御意見・御質問等はありませんでしょうか。
- 議長 知事は忙しいので、なかなか挨拶ができないのですが、次回の元気！健康！フェアで挨拶を依頼してはどうでしょうか。
- 伊藤委員 運動もさることながら、高血圧に大きく関係する塩の摂取量が多いことは、大きな問題であります。広島県は市と協働して（減塩に）取り組んでいます。仙台でも取り組んではいますが、なかなか広がりが出ない状況です。
- 下川委員 かるしおレシピの評判がいいです。健康フェアのときでも、紹介してみたらどうでしょうか。
- 議長 河北新聞と東北放送、在仙の大学が中心になって健康フェアを毎年実施しています。健康フェアの場で、県が問題提起するのはよいですね。
- 伊藤委員 県が持っているデータを、告知する場でもいいかもしれません。
- 桜井委員 このデータは公表してよいのですか。
- 事務局 厚生労働省などで公表されているデータですので公表できます。
- 桜井委員 健康フェアでは、一般市民を対象にして会議・研修などを行っているのですか。
- 議長 2日間に分けて、話を聞くだけでなく、体験も含めて実施しています。運動やヨガもしています。毎年 7,000 人前後参加しています。今年は、4月5日・6日に開催します。
- 桜井委員 マスコミも来ますか。
- 議長 東北放送や河北新報も来ますが、知事に参加してもらおうといいですね。あるいは、河北新報に話して、さまざまなデータがワーストで憂慮すべき状況であると、1度ではなく何度も出してもらえるといいと思います。
- 課長 メタボワーストであることは、H24 年度と H25 年度の県政だよりに掲載されました。県議会でも一般質問があり、知事からメタボ対策にも取り組みます、と回答しましたし、知事のマニフェストにもメタボ対策に取り組むことについて記載してあります。
- 議長 県政だよりは、県民はあまり見ていないと思います。（メタボ対策が）知事の公約にも入っているのであれば、県も本気になって、いろいろなところから取り上げてもらいましょうよ。健康フェアでは、宮城県の健康づくりについて10分くらい話してもらいたえるといいですね。

4 協議事項

議長 次に、協議事項ですが、市町村への指導事項について事務局から説明願います。

(事務局説明)

議長 この委員会で提案いただいたことをきちんと入れていただけていますが、これを末端まで浸透してさせていく、時間がかかってもやっていく、ということが必要だと思います。

食塩摂取量とエネルギー摂取量の関係では、結局、たくさん食べている人は食塩も多く取ってますよ、ということですね。でも、体格とは比例しない、ということでした。

伊藤委員 塩分制限は、産業界を含まないといけませんよね。お弁当がしょっぱいことが多いと思います。

議長 塩分で味をとるのではなく、だしを取って塩分を減らすということが大切ですよ。でも、しょっぱい味で食べることに慣れてしまっています。

伊藤委員 学校給食はどうですか。

事務局 一食で3g未満と決まっています。低学年では、2.5g未満、2g未満となり、3段階となっております。

伊藤委員 1食3g? 3食で9gにもなってしまいますね。もっと薄くできないのでしょうか。

議長 スナック菓子なども塩分が多いですね。また、レストランの料理で、ちょうどいい、と思う料理は、塩分が濃い場合が多いですね。レストランで出された料理と、家庭の料理の塩分量を比べる習慣が出てくるといいと思います。

伊藤委員 県では(減塩についての)パンフレットを何か出していますか。

事務局 塩エコパンフレットを出しています。(委員へ配布)

桜井委員 子どもの肥満も多いのではないですか。

事務局 子どもも肥満が多いです。子どもの時から肥満なのは、宮城県の特徴となっています。

議長 学校で子どもの肥満について講演した時の話ですが、親子で体育館に並んでいたのを見たら、親子でみんな同じ体系だったのです。結局、子どもの肥満についてではなく、親の肥満の話をしてきたことがありました。

何かのジャーナルに「肥満は感染する」と、掲載されていたことがありました。友達が肥満だった場合、もう片方が肥満になるのは65%、夫婦では55%感染す

るというおもしろいデータでした。10年くらい前のジャーナルだったと思います。

課長 生活習慣が悪いことが影響しているからでしょうか。宮城県は子どものむし歯もワーストになっています。

議長 宮城県はいつも受診率が高い割には、成績が伴っていないですね。

桜井委員 生活の文化度が低いのではないのでしょうか。皇居の周りを走っているようなことが仙台では少ないように思います。

議長 この市町村の指導事項としては、部会で提案したことが少しずつ実を結んでいるな、と思います。今後ともよろしくお願いします。県だけでがんばらないでいろいろな人を巻き込んだ方がよいと思います。いろいろな方法を考えましょう。

ところで、県では、健康祭りみたいなものを実施していますか？

事務局 以前は実施していましたが、最近では実施していません。

議長 そのようなイベントがあれば、知事に話をしてもらいやすいのではないのでしょうか。この生活習慣のワーストを何とかするには、市町村や団体などに任せきりにしないで県が自ら音頭をとって旗振りをする必要かもしれませんね。なんかインパクトがないとこのまま変わらないのではないのでしょうか。

相田参与 先ほど、給食の塩分量の話がありましたが、外食の塩分を1g減らしていけるとよいと思います。

伊藤委員 子どもの頃からの学校教育も大事ですね。

桜井委員 具体的な戦略を考えてみてはどうですか。

議長 こういう（減塩）のをテーマにしたNPOはないんですか。

事務局 何力所かあります。

議長 そういうNPOなどとコラボした研修会などを企画することもいいのではないのでしょうか。

伊藤委員 市民講座をしても来る人はメタボではない場合が多いですね。医師の講演などに来る人は勉強している人が多く、本当に（減塩などを）伝えたい人に伝わっていないことが問題だと思います。

議長 自分がどの健康状態にあるのか自覚させたりするのはどうですか。例えば、あなたの体重は、宮城県でワーストですよと、自分のデータをグラフの中につけてわかりやすくするなど、自覚しませんかね。

桜井委員 定期的に受診している人の中には、自分のデータをきちんとわかりやすくまとめ

ている人もいますよ。

議長 いずれにしても、NPOなどに力を借りたいですね。県及び県議会のトップの人たちにも力を借りられたらいいですね。

5 その他

議長 以上で、本日予定していた議事を終了したいと思います。

次に、その他ですが、事務局から何かありますか。

事務局 (追加資料 医療整備課から発言)

議長 ただいまの説明につきまして、何か御意見・御質問等はありませんでしょうか。

桜井委員 PDCAサイクルとは何なのかということですが、急性心筋梗塞の死亡率を5%減らすとして、どこかで介入しないといけません、どこで介入するのですか。PDCAサイクルの中ではこれが大切だと思います。

先ほどの説明の中で、宮城県は脳梗塞の割合よりも脳出血の割合が全国よりも多い、という説明がありましたが、死亡数では、よくわからないと思います。

まず、ベースとなる数値があって、その要因は何かを調べて、それに県として介入して、チェックしていくことがPDCAサイクルだと思うのですが、それが本当に毎年できるのかは疑問に思います。できることとできないことがありますよね。

議長 全体会議にするメリットは何ですか。お互いに情報交換することですか。

伊藤委員 地域の保健師さんたちは、いろいろな情報を持っています。検診のデータなども持っています。血圧が高い人はどのくらいいるのか、タンパク尿が出ている人はどうか、などを指摘したときに、受診したのかどうかなどです。そして、セカンドオピニオンをしてどうだったかなどもたくさん持っています。それを変えるための仕組みを作っていただかなければならないと思います。

データを取り寄せてどこが問題なのか、できそうなところに介入していくことが大切ですね。保健師レベル、医師会レベルも協力してもらわないと改善していきなれないと思います。実際の問題点はどこなのか、ということがわかってくると思います。

議長 小さい町は住民の情報をもっていますね。仙台市などの大きい市ではなかなか把握できない所もあります。

伊藤委員 熱心に活動している保健師のグループもあります。宮城県にもいるので、そういう人たちと協力して何ができるのか、ディスカッションしてみてもいいですか。

桜井委員 熱心な人はとても熱心なので、協力できるといいですね。

議 長 日本型の予防医学がクローズアップされるので、そのようなことに対する予算立てをした方がよいと思います。

中央でそういう施策があれば、県のワーストを武器にして改善したいんだと提案してみてもどうですか。先取りした方がよいですね。

他に委員の皆様から何か御意見ありませんか。

議 長 ないようですので、ここで司会をお返しします。先生方、長時間にわたりありがとうございました。

司 会 委員の皆様、今日は長時間にわたりまして貴重な御意見をありがとうございました。本日の会議は以上で終了とさせていただきます。

大変ありがとうございました。